

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏日が続き、酒屋やコンビニ、大型店の食品部門、洋品店などの夏物関連商材が好調に推移している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・3か月前よりも売上は良くなっている。ただし、前年と比べるとあまり良くない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・好天が続いたため、人出が良くなり、主力商品であるビール・飲料の販売量が増加している。例年、7月は売上の良い月だが、今年は3か月前と比べて消費が明らかに上向いているという実感がある。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温が高めに推移したことにより、夏物衣料が好調である。ただし、客単価は若干低めの動きとなっている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・猛暑の影響もあり、夏物衣料が堅調に推移している。中心部への人の流れや消費行動も活発化している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量が前年比102.5%と伸びている。来客数も前年比102.2%と伸びている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・高速道路の無料化社会実験と暑さによる影響なのか、来客数が前年比107%と増加している。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・5月までは、客単価が前年比で5%程度低下していたが、6～7月は前年比で2～3%程度の低下にとどまっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、夏物家電が好調に売れている。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・観光地が混雑する観光シーズンの夏休み前に北海道を観光しようとする年配客が増えている。食事では高単価の地元食材メニューが人気である。
		観光型ホテル（経営者）	お客様の様子	・景気の動向として、従来の顧客である滞在型のゴルフ客が戻ってきている。これらの客は消費意欲が高いことが特徴である。また、堅実ながらも良いものをきちんと判断する客層も戻ってきている。レストランでは、メインダイニングとブッフェレストランですみ分けが明確になっており、客単価が上昇している。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・ホテル宿泊関連では、夏観光の宿泊単価が前年に比べて5%程度低くなっているものの、海外客・国内客ともに予約が順調であり、春までの悪い状況から脱却している兆しがみられる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行については、夏休みの影響もあり、個人客の取扱人数が前年比233%となり、販売額も前年比214%と前年を上回っている。一方、国内旅行の個人客については、低廉商品の人気が先行しており、販売額の伸びは鈍い。団体旅行については販売額が前年比150%となっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・7月の取扱額は、国内旅行が前年比111%、海外旅行が前年比113%となり、久しぶりに国内・海外ともに前年を上回った。しかし、伸び率が高いように見えるのは、前年に新型インフルエンザの影響を大きく受けたためであり、前々年度との比較では取扱額が20%以上少ないのが実態である。
	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前と比較すると、タクシーの売上は13%程度増加している。例年、7月は観光客の入込が増えるため、売上が増加する傾向にあるが、今年は函館競馬場が新装オープンしたこともあり、前年実績と比較しても売上が2%程度上乗せされている。	
	観光名所（役員）	来客数の動き	・前年と比べて海外客が大幅に増加している。国内客も天候がまずまずであったことから、持ち直しの動きがみられる。7月の来客数は厳しかった前年を上回り、前々年並みの水準まで回復している。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・北海道観光の繁忙期を迎えたことで、来客数は3か月前に比べて227%の増加となった。前年との比較でも99.0%となり、景気が回復しつつある。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・過去3か月の売上は前年よりも減少していたが、今月は徐々に売上が増加しており、前年比で5%程度の増加となった。	

	設計事務所（所長）	競争相手の様子	・建築確認申請の検査機関が混雑して、申請に時間がかかるようになった。それだけ取扱物件が増えていることがうかがえる。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・モデルルームに来訪する客の成約までに費やす検討時間が短くなってきており、マンション購入の決断が早くなってきている。そのため、モデルルームへの来訪数の割に成約戸数が増えている。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量、客単価ともに落ち込んでいるため、経費をかけて売出しの数を増やしているものの、前年の売上を確保するのが厳しい状況にある。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・依然として客の慎重な買い方が続いている。季節商材も本当に必要になって初めて買い求める傾向にある。
	商店街（代表者）	単価の動き	・夏のバーゲン時期ということで客の動きがみられたものの、前年と比べて客単価がかなり落ちており、売上に繋がっていない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候不順の影響により、例年よりも気温が高くなっているため、客の反応は今一つである。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年、7月中旬以降は夏祭りの季節となり、来街者が増加していたが、今年は暑かったり寒かったりという天候の影響もあり、来街者数は6月と比べても増加していない。中元シーズンであるにもかかわらず、各店舗を訪れる来客数はまばらである。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・7月に入り、非常に暑い日が続いた影響で、衣料品の動きが紳士服・婦人服ともに良い。婦人服はカットソー・ブラウス・パンツの動きが特に顕著であり、紳士服はジャケット・カジュアル・パンツ・カットソーなどに動きがみられる。中元商戦も好調に推移している。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・今年度の売上は全館で前年比95%となっている。4月が前年比103%と前年を上回ったものの、5月が95%、6月が97%、7月が95%と前年割れが続いている。買上客数も4月に前年比102%であったものが、5月は100%、6月は97%、7月は96%と前年を下回って推移している。
	百貨店（役員）	お客様の様子	・猛暑の影響で売上が増加することを期待していたが、思ったほどの伸びがみられていない。
	スーパー（役員）	単価の動き	・7月に入り、気温が予想以上に高いことから、夏物の動きが良くなっているものの、客単価は2～3か月前よりも4%前後低下し、前年比98%台で推移している。一方、商品単価の下げ止まりは感じられるが、客1人当たりの買上点数が前年比101%と伸びていない。ただし、既存店全体での売上は、来客数が前年比で4%程度増加しているため、先月に引き続き前年を3%強上回っている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・高速道路の無料化社会実験の影響で、来客数が増加したエリアと減少したエリアがあるが、総じて減少傾向が強い。一方、天候要因による来客数の増加も継続しているが、後半は上乘せがなくなり、伸びが鈍化している。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・猛暑の影響を受け、冷蔵庫や扇風機、除湿機が好調であるが、パソコン等が不振であり、全体としてはほぼ横ばいで推移している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入時の補助金が功を奏しており、販売量が前年よりも良くなっている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入時の補助金の終了が近づいているなか、販売量が前年より2割ほど増えている。ただし、客単価は依然として低い状態が続いている。
その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・年金の支給月以外は、処方せんを交付されているリピート客の来店頻度の遅延が起きる。処方せんどおり薬を飲まず、飲む量を減らして服用期間を伸ばしている人もいる。	
その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・自動車用燃料の販売量が前年を大幅に下回っている。	

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・夏休みに入り、昼は満席の状態が続いており、来客数は前年を10%上回るなど順調である。一方、客単価は前年並みである。外国人団体観光客から直接メールで予約が入るケースが増えている。	
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価が低迷しているため、売上は前年をやや下回った。他業種の繁盛店もにぎわってはいても、客単価が上がらず、苦戦している。中国人観光客の増加による影響は、高級店ではあまりみられない。	
	一般レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・企画商品や値下げ商品には客の反応があるが、客単価が低下するため、売上増加に結び付かない。	
	スナック (経営者)	来客数の動き	・何年も前から7月は横ばいでの推移であり、可もなく不可もなくという状態が続いている。少しは良くなっているのかもしれないが、今年の数字は前年並みであり、全体としては変わらない。	
	観光型ホテル (経営者)	単価の動き	・6月以降、宿泊客が微増しているが、宿泊単価が極端に下がっていることから、売上は不振であり、経費負担が増している。	
	通信会社 (企画担当)	お客様の様子	・前月に引き続き、スマートフォン型の携帯端末を中心に通信機器の販売が好調である。	
	パチンコ店 (役員)	お客様の様子	・3か月前と比べて、客のニーズが低価格にはっきりと移行している。遊戯する機械も大当たり確率の高い機種が最も多くなっている。来客数に大きな変動はみられないが、純粋にパチンコで遊びたいという層が増えている。	
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量がやや増えている。	
やや悪くなっている	コンビニ (エリア担当)	お客様の様子	・たばこの販売量が減少している。増税を控えて節約している客が増えており、特に給料日以降の減少が顕著である。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー協議会で当市のタクシーが供給過剰と判断されたことから、ハイヤー協会加盟のほぼすべての会社が、今年中に全体の10%に相当する約500台の減車を進めている。当社も今月までに7%の減車を実施したが、利用客が減っているため、1台当りの収入が増えず、前年と比較すると大きな減収になっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・電話注文数が減少しており、来客数も前年を下回っている。	
	通信会社 (社員)	お客様の様子	・ボーナス商戦が終わり、消費を刺激するようなイベントなども今後ないため、客が慎重になっている。	
悪くなっている	コンビニ (オーナー)	それ以外	・政権交代してからの民主党の政策に不安を抱いている消費者が多く、消費動向にもその不安が反映されている。	
	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー] (従業員)	来客数の動き	・観光最盛期に入ったにもかかわらず、利用者が減少している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	家具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・景気の回復感が広がるなか、今まで控えられていた物件が動き始めた。マンション販売の増加に伴い、家具の需要も伸びつつある。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・見積の引き合いが増えてきている。
		輸送業 (営業担当)	取引先の様子	・猛暑により、清涼飲料水、医薬品、生乳の輸送量が増加している。それに伴い、缶やペットボトルなどの容器の輸送量も伸びている。
		輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・4月以降、国際コンテナの取扱量が順調に伸びている。特に6月は、過去最高の取扱量となっており、当社の業績にも良い影響が出ている。
		その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	取引先の様子	・今まで受注の少なかった客先からの仕事量が増えており、回復基調に向かっている。
変わらない	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較しても、受注量、販売量ともに悪い状況のままであり、変化がみられない。	
	出版・印刷・関連産業 (従業員)	取引先の様子	・先月と変わった感じもなく、厳しいまま変わらない。	

	金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・相変わらず販売量及び受注金額が伸び悩んでいる。受注量を前年比でみると、3か月前とほぼ同じ水準で推移している。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度初めに出てきた建築工事も業界全体に行き渡るような総量がないまま、しぼんでいる。見積の引き合いはほとんどなく、大手鉄骨加工業の工場はほとんど稼働していない状況にある。	
	金融業（企画担当）	それ以外	・公共投資予算の大幅削減の影響で、建設土木業界は大幅な落ち込みとなっている。一方、政策効果の続いている新車販売、家電業界、リフォーム業界は堅調に推移している。住宅着工戸数や観光客数は低水準ながらも増加傾向にある。全体としては、政策効果でかさ上げされている感があり、回復したとは言えない状況にある。	
	司法書士	取引先の様子	・取引先である建設業、不動産業、金融機関等における受注が思ったほど伸びておらず、今一つの状況にある。	
	司法書士	取引先の様子	・景気回復の実感がないため、消費が伸びない状況にある。住宅着工件数が若干伸びているが、これは景気回復によるものというよりも、住宅ローンを主力業務とする金融機関の金利政策によるものである。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・公共工事の発注遅れがみられ、相変わらず厳しい状況が続いている。	
やや悪くなっている	通信業（営業担当）	取引先の様子	・投資や業績について、3か月前よりも慎重な姿勢や予想以上に低調だとの話が目立つようになってきている。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・工事が減り、更に低価格受注が進行している。川下業界では、そのしわ寄せが横行している。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注額の前年比が、3か月前よりも低下している。	
悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・不動産の売買や建物の新築は元より、増改築も少なく、停滞したままである。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度になって急激に受注量が減っている。中国に相当量の仕事が流出している。	
雇用関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年に比べて、求人数が15%ほど増加している。特に食品製造や食品加工、これらに関連する食品系物流の求人の増加が顕著である。また、コールセンター関連の派遣スタッフの募集も増加している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・7月の求人広告の売上をみると、前年比で10%の伸びとなっている。今年2月から7月までの間では4月だけ若干減少したが、上向き傾向を維持している。業種では、大手企業への派遣が苦戦したものの、他は全般的に前年を上回った。特に、流通系、加工製造卸系の伸びが顕著であるほか、これまで出稿がほとんどなくなっていたホテル・観光系も動きが出てきており、広く雇用環境が改善されている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は14.0%増加し、5か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は12.6%増加し、5か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・正社員の求人は横ばいではあるが、パート・アルバイトの求人数が増えてきている。特に流通関係からの求人が堅調である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・地域の基幹産業である農産物の収穫・加工といった季節型の派遣求人が増加しているものの、常用型の求人には増減がみられない。	
	職業安定所（職員）	それ以外	・有効求人倍率が0.33倍と低水準で推移している。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年と比較すると持ち直しの動きがみられるが、水準はまだ低く、底の状態以小刻みに動いている範囲にある。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・6月の新規求人数は前年を14.8%上回った。一方、新規求職者数は前年を2.4%下回った。月間有効求人倍率は0.41倍であり、前年の0.32倍を0.09ポイント上回っている。
やや悪くなっている	学校[大学]（就職担当）	周辺企業の様子	・7月の求人件数の動きをみると、年度始めと変わりがなく、前年を下回る傾向に歯止めがかからない。道内求人は更に動きのない状態にある。大学としても相応の就職支援を行っているが、地元志向の強い学生の活動が鈍くなっている面を否めない。企業訪問や情報交流の場では、過去の就職氷河期と異なり、採用側の採用予定数にこだわらない傾向が顕著になっている。
悪くなっている	-	-	-